

特集 福井に移住してきた3人に聞く 移住者座談会

「福井は素晴らしいまち! 情報発信でさらに魅力アップを!」



2014年6月に日本創生会議によって公表された「消滅可能性自治体リスト」では、「2040年までに896の自治体が消滅する」と試算され、全国の自治体に衝撃を与えました。一方で、田舎の良さを求めて地方への移住を希望する人も増えています。ある調査によれば、2009年度からの5年間で地方への移住者が4倍以上に増えたという報告もあります。今回は、福井県に移住してきた3人に集まっていたいただき、移住のきっかけや福井県の印象、定住人口を増やすための方策などについて、話し合ってもらいました。

「福井県に移住した理由は。」

吉澤 元々妻が坂井市出身で、昨年、子どもが生まれたのをきっかけに、15年間住んでいた千葉県を離れ、福井市に移住してきました。

馬場 わたしは、父の転勤が多く、学生時代から十数回引越しを経験してきました。元々、東京のIT関連の会社で働いていたんですが、2012年の秋に小浜市に移住してきました。きっかけは、元々、仏像巡りが趣味で、全国各地の仏像巡りをしていたんですが、小浜の街を訪れた際、住んでいる方たちの人間味に魅了されました。こんなところで人間らしい生活を送りたいと率直に思いました。

佐々木 わたしの出身は茨城県で、生まれは埼玉県です。今年の3月まで松戸市役所に勤務していましたが、夫が越前市出身で、結婚を機に移住してきました。

「移住に当たって、不安はありましたか。」

吉澤 特に不安はありませんでした。仕事に対する不安の方が大きかったです。上手く軌道に乗せられるのか。実は、福井市内には、ダンススクールが5、6軒あるんです。ですから、需要があるのが一番不安でした。両親もダンスなんて成り立つのかと正直疑っていました。かなり特殊な職種です。ただ、こちらに

馬場 淳子さん(53歳)
(KISUMO 小浜1ターンPJリーダー)
東京都出身。幼少期から関東近県・大阪近県に転居を繰り返し、小浜移住が16回目の転居となる。2012年9月に東京のIT関連企業を退職し、小浜市に移住。



吉澤 直哉さん(36歳)
(ダンスワークス291 代表)
栃木県宇都宮市生まれ。獨協大学在学中に競技ダンスと出会い、スタンダードの部で全日本学生ファイナリストになる。大学卒業後に千葉県にてターンプロし、JBDF東部総局スタンダードB級に昇級。年に1~2回の海外留学を続けながら競技ダンサー・社交ダンスインストラクターとしての経験を積む。



佐々木 恵理さん(30歳)
(越前市役所 水道課 勤務)
茨城県出身。結婚を機に福井県越前市に移住。昨年12月まで千葉県松戸市役所勤務。



来て一番助かっているのは、妻の両親が近くにいることです。子どもの面倒を見るときのなど、大変助かっています。

馬場 地域の人の受け入れてもらえるのが一番不安でした。以前に訪れていた「古民芸あさい」の店主、浅井さんが小浜に空き家があると教えてくれ、ネットで見た物件の不動産業者が、たまたま浅井さんの知り合いでした。その繋がりから人の輪が広がり、地域に溶け込むことができました。浅井さんには感謝しています。

佐々木 わたしは不安しかありませんでした。まず、仕事が変わりますし、友人や家族とも離れ離れになります。寂しさや新しい生活に対する不安で一杯でした。福井県に来てからも夫が富山県に転勤となり、現在は、職場の近くにマンションを借りて、一人暮らしをしています。現在は、話し相手もおらず、日々寂しいです。

吉澤 わたしも、地域の人たちの交流などはあまりなく、話し相手は、受講者くらいです。受講者は子どもから年配の方まで様々です。嶺南や金沢市からの受講生もいます。

佐々木 越前市には、越前市役所 IJU課という越前市職員の IJU! Uターン経験者の若手職員によって

構成される市の行政組織には含まれないバーチャルな課があります。 IJU課は、移住当事者が当事者目線で越前市の魅力を SNS 等で発信したり、地域と協働してイベントに参加したり、イベントを企画運営したりして、地域の皆さんと繋がる、繋げる活動を行っています。

馬場 地域のまちづくりに加わったことが、友達ができるきっかけになりました。小浜には、小浜西組重要伝統的建造物群保存地区があるので、その保全活用に興味を持ち、協議会に参加しました。まちづくりに関わるうちに、共通の趣味を持つ人や、地域活動に同じ思いの人と知



IJU課の委嘱状交付式(2017年4月)



ダンス教室の様子

り合い、友達が増えました。サラリーマン時代もそうでしたが、学生時代や会社の同僚との交流だけではなく、趣味や専門職種の資格を持つ人との交流会に、積極的に参加してきました。仕事と家庭だけではなく、自分のやりたい趣味や領域で繋がりを持つことが大切です。それが仕事やライフワークの糧にもなります。

―福井県に住んでみた印象は。

馬場 福井県は年収に占める教育費の割合が高いように感じます。水泳やピアノ、英会話など習い事を習わせている親御さんがたくさんいます。東京でいうと家賃の負担を教育費に振り分けているような印象を受けます。

吉澤 福井県は治安が圧倒的に良
はあり得ません。小浜では、良くも悪くも皆が知り合いで身近な存在です。今、ボランティアでまちづくりに携わっていますが、まわりにはボランティアに目標や成果は求めなくて良いという意見もあります。わたしはボランティアであっても、3年後、5年後の目標や具体的な成果といった写真を持つ方が良いと思います。目的があつて行動し成果を生むのです。今、役所をお願いしたいことは、小浜市にも新幹線が来るので、それを想定した具体的な都市計画、あるいはまちづくりを明示することです。近い将来、大手不動産会社が乱開発してしまわないか、危機感を持っています。安定的な収入を得るために公務員となる人が多いと思いますが、自治体職員は自分がその地域に何を貢献したいかという信念を持つてほしいと思います。わたしが民間企業にいたとき、ものづくりに貢献し、それが日本の発展に寄与できるという信念を持っていました。物事への取り組みの姿勢に違いを感じます。責任の所在がわかりにくいと思います。ボランティア団体も、任されなくてもボランティアだからそこまでしなくても良いと思い、中途半端なことになる。自治体職員が、地域のためにという気概でまちづくりを先導

いと思います。関東では、事件や事故のニュースが多いですが、こちらはイノシシや鹿が出たニュースが話題に上ります。

馬場 首都圏と小浜市では金銭感覚が異なります。千葉にいたときは、財布に5万円入れていると不安でした。小浜だと、財布を忘れたとか、財布にお金が入っていないという話も聞くし、何より周囲の人はみんな親切なので、何かあったら助けてくれます。首都圏ではお金で解決するしかないんです。あと、驚いたのは、福井の人は歩かないという点。200m先のコンビニに行くのでも車で行きます。また、小浜は鍵をかける習慣があります。一週間家を空けるのに鍵を閉めない方もいます。

佐々木 福井県に来て驚いたのは、マンションを選ぶ際、セキュリティよりも、部屋の広さで物件を選ぶ点です。関東での一人暮らしは、セキュリティが甘いマンションだとすごく不安になります。

吉澤 福井県は、教育の質が高い印象があります。また、待機児童がゼロです。凄く子育てのしやすい環境だと思っています。

馬場 小浜市の印象は、風光明媚な環境、そして、水道が湧水100%であるということ。水がおいしく、食べ

していただき、それにボランティアが付いていくのが理想だと思っています。また、助成金や支援もきちんと考えてほしいと思います。地方に移住すると助成金を出す自治体もありますが、移住に助成金を出さなくても良いと思います。逆に言うと、助成金目当ての移住は受け入れないで欲しいと思います。移住にリスクを伴うのは当たり前です。移住者は自分の暮らしたい地域に覚悟を持って移住するのです。助成金があるから移住するわけではありません。助成金は、あくまでも、目的があつての補助です。

佐々木 福井県は、親子や子ども対象のイベントは多いですが、カップルや若い年くらいの友達で出かけたというイベントが少ない印象があります。だから、若い人たちが楽しめるイベントをもっと誘致していただきたいと思っています。

―移住希望者へのアドバイス、また、福井県への移住者を増やすための提案は。

吉澤 移住するにあたって、不動産の情報など少ないのはネックになりました。福井なら金沢も含めた周辺の情報もほしいと思います。

物もおいしいです。首都圏では、水道水をそのまま飲みませんでしたが、風呂水も殺菌の影響か肌の乾燥が酷かったです。また、小浜の人は、見返りなく親切です。3世代同居が多い為か、お年寄りの対応に慣れていて、優しいですね。老いた両親が、買い物の際レジでもたつき後ろから急ぎ立てられることがありましたが、小浜では考えられません。高齢者を敬う気持ちがあり、介護の質も高いと思います。

佐々木 まだ福井県に来て2か月です。最近、仕事で現場に出る機会が多いんですが、福井には山があつて、田んぼがあつて、川があつて。そういう風景を見ると、都会よりも時間がゆっくり流れているように感じます。

馬場 都会に比べると四季の変化を肌で感じるのが少ないように思います。キンモクセイや四季折々の花の香り、蛙の鳴き声で季節の移り変わりを感じます。昭和40年代の豊かで平和な日本の暮らしが福井県では継続している感じがします。

馬場 首都圏では通勤片道二時間は当たり前です。福井県に比べると

馬場 確かに福井県の不動産情報は少ないと思いました。移住者を増やしたいのなら、福井のCMを全国ネットに流すくらいの方策が必要だと思っています。新聞広告も効果的だと思っています。

佐々木 移住してすぐは慣習や近所付き合いなど戸惑うことはたくさんあると思いますが、それを楽しめる気持ちの余裕が必要だと思います。地域の人にいきなり受け入れてもらうのが最も大切だと思います。

―これからやりたいことや、または目標は。

吉澤 福井県の子どもは、運動能力、教育水準も高く、やればできる子がたくさんいると思います。折角こちらに来たからには、福井県のダンス人口を増やすためのお手伝いをできたらと思います。

馬場 地域に誇りに思ってもらいたいです。なぜ何もない小浜市に移住したのかつてよく聞かれるのですが、地元の人に、地元の良さを実感してほしいと思っています。また、小浜には実験に必要な純度の高い水とインフラがあります。ぜひ行政には、企業の研究所を誘致してほしいと思います。人口増雇用の確保もあります



KISUMO小浜 空き家ツアー(2016年12月)

通勤時間が30分でも遠いと言われる。小浜は15分以上で駄目みたいですね。首都圏では通勤にかなりの時間がかかります。小浜の人は通勤に時間をかけない分、働いている印象があります。

―自治体に求める施策や取り組みは。

馬場 小浜では、政治と市民との距離が近い印象があります。市長と直接話ができたり、市議会議員と食事をしたりすることもあります。以前住んでいた地域で市長や市議会議員と個人的な付き合いなど一般市民に

が、多くの研究員は博識で人脈もある。いろいろな情報を発信し、福井県の知名度をきつと上げてもらえらると思います。

佐々木 わたしは、早く福井弁を覚えることが目標です。福井弁が理解できず、お客さんとの会話が噛み合わない場合もあります。早く福井弁を身に付けてスムーズに接客できるようにしたいです。

(編集部)中西、伊藤

